

お祝いの言葉

本日ここに、ご来賓、各研究科長、各研究所長はじめ、関係各位のご列席のもとに、平成十七年度前期の学位記授与式を挙行することになりましたことは誠に喜びに耐えませぬ。

本日、学士の学位を授与されたものは、文学部、三名、教育学部、二名、法学部、二名、経済学部、九名、理学部、一名、工学部、四名、合わせて二一名であります。

博士課程前期二年の課程を修了し、修士の学位を授与された者は、文学研究科、二名、法学研究科、五名、医学研究科、一名、工学研究科、一八名、国際文化研究科、三名、情報科学研究科、二名、生命科学研究科、一名、環境科学研究科、環境科学、二名、合わせて、三四名であります。

博士の学位を授与されたものは、博士課程後期三年の課程を修了したものは、文学研究科、四名、法学研究科、一名、経済学研究科、四名、理学研

究科、三名、医学研究科、一二名、歯学研究科、一名、薬学研究科、二名、工学研究科、四六名、国際文化研究科、三名、情報科学研究科、情報科学、一四名、生命科学研究科、三名、環境科学研究科、六名、合わせて、九九名であります。

また、博士論文を提出し、博士の学位を授与され
た者は、文学研究科、三名、法学研究科、一名、
経済学研究科、一名、理学研究科、三名、医学研
究科、十名、薬学研究科、二名、工学研究科、四
名、農学研究科、五名、国際文化研究科、一名、
情報科学研究科、二名、環境科学研究科、一名、
合わせて、三三名であります。

本日の学位記授与者の中には、通常の四月ではな
く、十月入学者、また、学業成績が優秀により早
期卒業制度適用者、修士在学期間短縮適用者の諸
君もおります。これらの制度の有効性そして社会
的評価のためにも諸君の今後のすばらしい活躍を
期待いたします。

一方、長年にわたる大変な勉学により論文を書き

上げ審査を受けられ、学位記を授与された方々も
おります。これまでの長年のご努力に特に敬意を
表したいと思えます。本日学位記を授与される諸
君、さらに諸君を様々な点より暖かく支えてこら
れましたご家族の皆様にも、改めまして心からお
祝いを申し上げます。

諸君には、本学学位の授与、そして、杜の都、学
都仙台で東北大生として過ごされたことを誇りと
し、さらに精進を続けていただきたいと思います。

東北大学は、明治四〇年、一九〇七年に、東京大
学、京都大学について、わが国の第三番目の帝国
大学として創設されました。従いまして、来る二
〇〇七年には創立百周年を迎えます。開学以来私
たちの先人は、「研究第一主義」、「門戸開放」の理
念を掲げ、さらに「実用忘れざる主義」を精神と
し、その成果を世界に発信してまいりました。諸
君もこの歴史と伝統をもとに、これからも大いな
る飛躍を遂げていただきたいと思います。

さて、本年の八月一五日は、終戦より六〇年目に当たります。東北大学史料館に本学法文学部経済科の学生が、昭和一九年七月に故中村吉治教授の授業、「経済史」の試験課題として提出したレポートが四五点のこされております。学生の多くは、この後学徒兵として入営しました。一文をここでお借りし謹んで読ませていただきます。

「感想」 経済科一年。

此の半年、色々な意味で考へさせられる事が多かった。ごっそり友達の去った中で、あれこれと思ひやった六ヶ月間と、一日々々と過して来て見て、今振返る六ヶ月間とは、よくも斯う違ったものだど驚く程違ふ。良い意味でも悪い意味でもさうだ。そして今又此から入隊迄の日々をいとしんで大切に暮して行きたいと思っている。それも亦入隊の日に振返って見るならば、日数の単なる積重ねにしか見えないのであらうか。情ない事だと思ふ。たった一つでも毎日の生活を貫いて脈

膊つものをはつきりと創って行きたいものだ。

経済の勉強をほんの僅かでもやって来て判ったことはたった一つだった。経済学とは何と厩大な学問であらう！之は感覺的に知った丈である。どの位大きいか判るのには更に数倍の日子を要するであらう。その厩大な全体系を究明するには又多くの日子と、絶大な努力を要するであらう。そして全経済学体系を實際の国民生活に運営し得るのは、その上に卓越した才能がなければなるまい。我々の経済学は何處を目標として進むべきか、次から次へ連なる山路を前にした旅人のやうに、一寸とまどふ感じである。

入学して撮った写真は皆学校に出してしまつたので、又焼増して父の整理箆笥に入れてある。自分が戦死してその写真が大きな額縁に入れられているのを、ふっと思ひ浮べることがある。

(中間略)

一年前の今頃は友達と沓掛に行つて大学の試験準備に熱中して居た。浅間山が見え、時鳥や郭

公や山鳩が鳴いて居た。仙台で聞くのとは又別の
趣きがあった。その時の友達も今は總て軍隊に在
る。かうして忙しい様な、退屈な様な日を過しつ
つ、入隊の日を待っている。そして来年の今頃は
與へられた位置で第一線に立っていることであら
う。毎年日記をつけておけばよかったと、今更乍
ら思っている。――了――

諸君の、これから進むべき道は、社会の第一線に
出る者、更なる研究者の道に進む者など、一人
一人異なります。今日までの貴重な経験を、研究
室、教室で日夜努力して得た学問を十分に生かさ
れ、それぞれの道で優れた指導者になることを切
に望みます。

諸君の前途に幸多きことを祈念いたしお祝いの言
葉といたします。

平成十七年九月二一日

東北大学総長 吉本高志